

事務事業評価シート

事業番号	50					
事業名	全天周映画(プラネタリウム事業経費)	局名	教育局			
		部名	生涯学習部			
事業開始年度	平成7年度	課名	博物館			
根拠法令等	無し	所属長名	井上明夫			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: (株)東急コミュニティー) <input type="checkbox"/> 補助金(補助先:) <input type="checkbox"/> その他()					
	事業概要	目的 (何のために)	市民への天文及び科学知識の普及			
		対象 (誰・何を対象に)	市民			
		事業内容 (手段・手法など)	賃料を支払い上映権を得て全天周映画を上映。(土日は1日2回、平日は1日1回) 投影は、賃貸借によるデジタルプロジェクターを使用。(プロジェクターは、従前のアナログのスライド投影機に替わって、学習投影でのパワーポイントによる解説にも使用している。) 上映作業は、プラネタリウム操作委託と併せて業者に委託している。			
事業の必要性		天文・科学に関する知識を市民に親しみやすい形で提供することが出来るとともに、より多くの方が博物館を利用するためのきっかけともなっている。 また、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還により宇宙探査や天文への市民の関心は高まっており、適切な作品選定により、市民のニーズに応えると同時に市外からの来館者も想定でき、「宇宙とつながる相模原」のキャッチフレーズによるシティーセールスにも貢献することが可能である。				
コスト			平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
	事業費(直接経費)		17,898 千円	6,333 千円	3,551 千円	
	人件費	正規職員	従事者数	1 人	1 人	1 人
			概算人件費	7,265 千円	7,265 千円	7,265 千円
		嘱託職員・臨時職員等	従事者数	人	人	人
			概算人件費	千円	千円	千円
	人件費 合計		7,265 千円	7,265 千円	7,265 千円	
総事業費		25,163 千円	13,598 千円	10,816 千円		
市民一人あたりの事業費		0.03 千円	0.02 千円	0.02 千円		

		平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
財源内訳	国・県支出金	千円	千円	千円	
	受益者負担金	千円	千円	千円	
	その他(博物館観覧料)	7,631 千円	6,333 千円	3,551 千円	
	一般財源	10,267 千円	千円	千円	
平成23年度 事業費の 主な内訳 (人件費を除く)	項目			金額	
	全天周映画ソフト借料			1,051 千円	
	プロジェクター賃貸借料			2,500 千円	
				千円	
			千円		
活動実績1	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	全天周映画上映回数	回	445	513	453
単位当たりコスト1	(総事業費/活動指標)	千円	56.5	26.5	23.9
活動実績2	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
単位当たりコスト2	(総事業費/活動指標)				
成果目標 (現状の成果及び 今後どのようにした いか、定量的な評 価で示す)	全天周映画の充席率は平成22年度において40.9%で、天文及び科学知識の普及という目的を十分果たしていると考えられる。今後も、質の高い全天周映画を提供することで、プラネタリウムと併せて、より多くの市民に学習機会を提供するように努めたい。				
成果実績	成果指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	全天周映画観覧者数	人	23,109	44,068	28,000
	全天周映画充席率	%	24.7	40.9	29.0
	プラネタリウム充席率	%	19.7	28.6	30.4
特記事項 (事業の沿革等)	平成22年度は、小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還により全天周映画「HAYABUSA」が好評を博し、観覧者数が急増した。全天周映画の観覧料収入は16,259千円あり、総事業費を差し引いて2,661千円の黒字であった。				
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	天文・科学知識に触れる機会を親しみやすい形で市民に提供する役割を果たしている。 学習機会の更なる拡充を図るため、今後も継続的に高質で話題性のある新規作品を上映できるよう、作品の選定に努める必要がある。				
評価	《評価の視点》	・ 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		・ 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	
		・ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない			
	《評価の区分》	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充			
	《評価区分の理由》 全天周映画「HAYABUSA」が第52回科学技術映像祭科学教養部門で文部科学大臣賞を受賞したことは、プラネタリウムにおける映像作品が科学知識の普及に大きな役割を果たし得ることを示した。また、市民一般の宇宙への関心が高まったことに伴い、市として図書館に宇宙関連本の紹介コーナーを設置したり、「はやぶさ」模型を制作し市役所正面玄関ロビーに展示したりしたなかで、同作品の上映を臨機応変かつ迅速に組めたことは、組織を超えた取り組みという面で、直営のメリットが現れたものと考えられる。今後も、天文・科学に対する市民の興味に応えるため、予算的に可能な範囲で維持していきたい。				
H24年度 予算への反映	精査を行った上で、必要な予算を計上				
経営評価委員会 による意見	●現状維持 ⇒ 見直し 全入館者数に対する全天周映画の利用者数の割合や、曜日による稼働率などを考慮した上で、委託契約の更新時に、費用対効果を踏まえた見直し(例えば、上映曜日の変更と費用の削減など)を検討すべきである。				